

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	或る夏の一夜 <故 川内且昭君の遺稿及び追悼>
Author(s)	萩田, 時子
Citation	広大言語, 6 : 77 - 77
Issue Date	1966-12-10
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046256">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046256</a>
Right	
Relation	



要な、とるに足る価値を付加していただけるものと内心期待していましたが、残念でし方ありません。

今はただ、あなたのおあとに続いて方言を研究される立派な後輩がきっとわが言語学研究室から生まれることを信じつつ、川内さん、あなたのご冥福を心の底からお祈りするばかりです。どうぞ安らかに……………

## 或る夏の一夜

秋田時子

夏の夜空があの一パノラマを展開した時  
暗闇の中に微かな明かりが姿を現わした。  
それは、あたかも生きているが如く  
ユラユラと  
私達の目から遠く離れて舞っていた。  
川の流れの音と  
星のキラメキの音とが  
大合唱を始めた時であった。  
今までだんだん大きく私達の目に近づいてきていたあの明かりが  
突如として姿を消した。  
一瞬対座していた私達の間でざわめきがおこった。  
——星は相変らず美しく輝いていた——  
しかしそれは、再び力を得たかのよう  
ポッと浮かび上がり、今度は確実にこちらの方へやってきた。  
やがて、彼の白いパンツが見えた時には  
目の前のうづ高く積もれた木々は  
快ちよい音をたてて燃え始めた。  
  
こうして三段峠でのキャンプファイアの聖火は  
彼の手で運ばれたのである。